

# 山



# 鹿



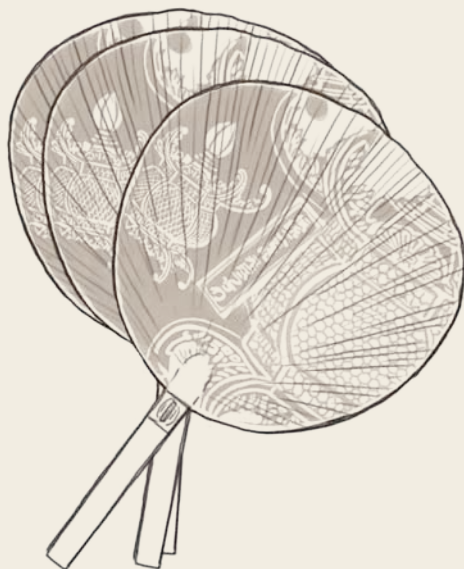
## 山鹿灯籠

室町時代から伝わる和紙と糊だけで作られた国指定の伝統的工芸品・山鹿灯籠。約2,000年前、菊池川一帯の深い霧に進路を阻まれた景行天皇のご巡幸を、山鹿の人々が松明を掲げてお迎えしたことに由来。以来、山鹿の人々は毎年大宮神社に松明を献上。室町時代から松明の代わりに紙細工で作られた金灯籠が献上される。山鹿灯籠には金灯籠をはじめ、神殿造り、座敷造り、城造りなど様々な様式があり、柱や障子の棧にいたるまで紙のみで精巧に作られている。毎年8月15日・16日には「山鹿灯籠まつり」が開催され、山鹿の人々が松明と山鹿灯籠(奉納灯籠)を大宮神社に奉納する。16日には、金灯籠を頭に掲げた女性が舞い踊る「千人灯籠踊り」も同時開催され、多くの観光客が山鹿を訪れる。



販売・見学 山鹿灯籠民芸館 TEL:0968-43-1152 山鹿灯籠の店 なかしま TEL:0968-43-2659

## 来民渋うちわ

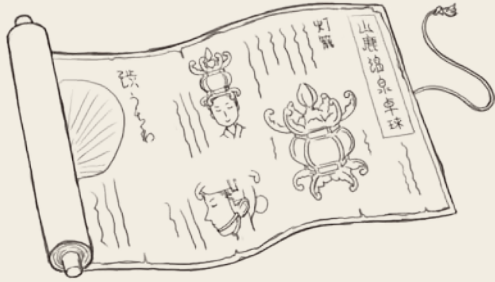


江戸時代から鹿本地区に伝わる伝統的な工芸品・来民うちわ。京都、香川と並び、うちわの日本三大産地として知られる。来民うちわの始まりは、江戸時代1600年頃、四国の丸亀の旅僧が一宿の謝礼にうちわの製法を伝授したとされ、肥後初代藩主細川忠利公の奨励により来民の地で盛んに作られるようになった。竹を切り出し、骨師がうちわの型を作り、和紙を貼り、青い未熟のから柿から採った柿渋をうちわに塗るまで全ての工程を手作業で行う。柿渋は和紙を丈夫にし、長持ちさせ、さらに防虫効果の役目をはたす。さらに年月と共に独特の色合いが深みを増していく。民が来るという意味で商売繁盛にも喜ばれている。

販売・見学 栗川商店 TEL:0968-46-2051

# 灯笼温泉卓球の作法

1. 山鹿灯笼 & 来民渋うちわについて勉強する。



2. 戦闘態勢を整える。

金灯笼、浴衣、来民渋うちわ



3. 一礼

対戦相手と伝統工芸  
への敬意を忘れないこと。



4. ルール説明

1 ゲーム 11 ポイント制。

サーブを打つ際に

「よーへーほ！」と叫ぶこと。

いついかなる時も灯笼が頭に

載っていることを忘れないこと。



5. 軽くラリー & 写真撮影をすること。

SNSにアップすること。

「# 山鹿あそび」



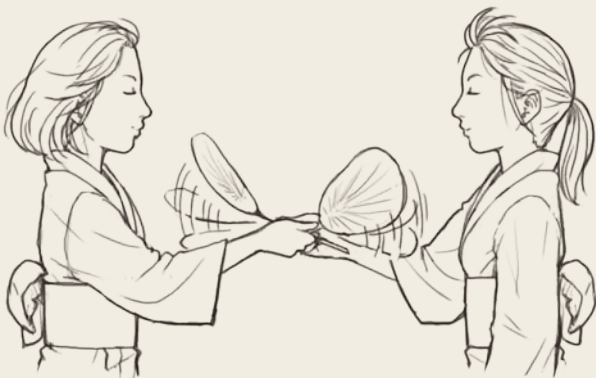
6. 勝負に必死になる前に

壊れやすい金灯笼を外すこと。



7. 暑くなってきたら、素振りをするように

相手を団扇であおいであげること。



8. 卓球を始めて 15 分経ったら

速やかに次の人に交代すること。

